

令和4年8月24日発行 第24号

遠野市コミュニティ・スクール推進研修会「熟議とそのファシリテートを学ぼう」

各教育事務所が開催した「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムは皆様のご協力の下、無事終了することができました。今年度は、参加者が715名と前年度より100名以上多く（昨年度はコロナの影響で開催できない事務所もあったため）、大変盛り上がったフォーラムとなりました。参加した皆様から、①コーディネーターの人選・育成、②熟議の方法、③運営委員の人選等に関する感想等が多数挙げられました。

今回は、推進フォーラム参加者の感想で特に関心の高かった「熟議」について、遠野市教育委員会が開催した研修会の様子をお伝えします。秋田県生涯学習センター社会教育主事皆川雅仁氏を講師に招き、熟議とファシリテートについて実践形式で講義をしていただきました。

皆川氏からは、学校運営協議会をより効果的に機能させるために、多くの地域住民に参画していただく「熟議」が有効であり、「熟議」を充実させるために「ファシリテーター」の果たす役割が重要であることをお話ししていただきました。皆川氏が実際にファシリテーター役となり、参加者が熟議のステップを体験することを通して、ファシリテーターに必要な技能を学ぶことができました。



熟議のポイント（一部抜粋）

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| □自由な議論、公平な発言機会を保障する | ⇒ しっかりとした話し合いのルールを提示 |
| □参加者のレディネスを整える | ⇒ テーマに迫るための簡単な学びの時間を準備 |
| □爽やか、柔らかな雰囲気をつくる | ⇒ ファシリテーターの力が必要 |
| □参加者が主役であることを忘れない | ⇒ 運営側の役割分担と仕事内容の確認 |
| □参加者の意見を可視化する | ⇒ 出された意見を見やすく、分かりやすく、簡単にまとめる |

熟議ファシリテーターの役割（一部抜粋）

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| □何のために話し合いをするのかを明確にする | ⇒ テーマ（主体）を意識させる = 自分の話に終始する人を抑制 |
| □場の雰囲気づくりをする（柔らかい、話しやすい） | ⇒ 意見交流がしやすい雰囲気 = アイスブレイク、語りかけ |
| □新しい気づき、アイデアを生み出す | ⇒ できるだけ多くの人の話を聞ける場 = メンバーチェンジ |
| □参加者が方向性（目標）を共有できる場（まとめ）をつくる | ⇒ 自分で決めたことは行動変化を生みやすい |
| □時間を適切に管理する（臨機応変な変更も） | ⇒ 参加者の満足度アップ、次回への意欲喚起、周辺への波及 |

参加者の感想

- ・熟議2回目の体験でさらに楽しいと感じ、ファシリテーターの心得を学ぶことができた。社会教育主事の先生方ともお話でき、すぐにでも熟議をしたい気持ちです。ありがとうございました。
- ・CSで熟議を進めなければならないと思っていたが、CS→熟議→CSという流れが良く理解できた。実際に熟議を経験することによって、議論の進め方がわかった。
- ・いろいろな立場の方々との交流を持つことができたこと。熟議によってさまざまな意見があるということを知ることができたこと。その方法を知ることができたことから、有意義であった。

本通信は下記ホームページに掲載しています。（※ダウンロード可能）

岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」

<https://manabynet.pref.iwate.jp/hp/>



「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。